

教育広報

いわみざわ市の教育

……特集……

教育研究所の取り組み



8 月 24 日、香川県さぬき市から小学生交流訪問団 13 名（小学生 10 名、引率者 3 名）が市内栗沢町を訪問しました。同市とは、合併前から栗沢町と交流を続けており、訪問団は栗沢町内に 5 日間ホームステイしながら、栗沢小学校や美流渡小学校の児童たちとの交流を深めました。また、8 月 21 日には、山梨県南アルプス市の子どもたちが北村を訪問し、北村小・中学校の児童・生徒との交流を楽しみました。

（写真：さぬき市小学生交流訪問団歓迎式 8 月 24 日 栗沢文化センター）

教育課題の研究拠点 岩見沢市立教育研究所



今年7月、「岩見沢市立教育研究所」が新しく完成し、移転しました。さて、皆さんは、教育研究所がどのような活動を行っているかご存知で

しょうか。今号では、岩見沢市の様々な教育課題の解決のために活動が続けている教育研究所の取り組みを紹介いたします。

沿革・組織

教育研究所は、昭和25年、岩見沢市の教育課題の解決を図る調査研究を行うとともに、様々な教育活動を支援することを目的に設立された岩見沢市の教育研究機関です。

現在、所長を含めた4名の専任所員をはじめ、小・中学校から各1名の教員が所員・研究員・研究専門員として委嘱され活動しています。

活動内容

教育研究所では、教育課題に関わる様々な調査研究や教育支援など、岩見沢市のよりよい教育活動を目指した取り組みを進めています。

調査研究活動

調査研究活動としては、4つの課題研究グループを設け、それぞれの研究テーマに取り組んでいます。今年度の研究テーマを紹介しましょう。

第1課題

小学校社会科副読本「いわみざわ」の活用に関する調査研究

新しい社会科副読本や社会科学学習帳の発行（平成20年4月）に向けた調査・研究及び編集・発刊作業を行っています。

第2課題（小学校部会）

地域素材を生かしたデジタル教材の開発に関する調査研究

インターネットを利用した社会科副読本用デジタル教材の作成や岩見沢の草花を紹介する「いわみざわ植物図鑑」の追加補訂に取り組んでいます。



「いわみざわ植物図鑑」のトップページ
<http://www2.city.iwamizawa.hokkaido.jp/kyouiku/it/zukanV/zukantopp.htm>

第2課題（中学校部会）

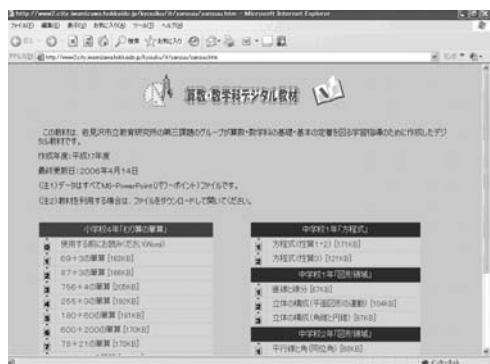
動画クリップを生かしたデジタル教材の開発に関する調査研究

保健体育科における動画クリップを生かしたデジタル教材の収集・開発や授業での活用実践・検証を行うとともに、情報教育機器の有効活用について研究しています。

第3課題

基礎・基本の定着を図る学習指導の改善に関する調査研究

より効率的で確実な基礎・基本の定着を目指した学習指導の工夫・改善を図るため、算数・数学科におけるデジタル教材の作成・研究に取り組んでいます。



「算数・数学科デジタル教材」のトップページ
<http://www2.city.iwamizawa.hokkaido.jp/kyouiku/it/sansuu/sansuu.htm>

※本ページでは、平成17年度に作成した教材を紹介しています。

双方向遠隔学習の推進

通信衛星とテレビ会議を活用した双方向遠隔学習の取り組みにあたり、学校や市教委等で構成する推進組織の事務局として学習を支援しています。

双方向遠隔学習は、ごみ処理や生活指導などをテーマに、テレビ会議を通じて参加する小・中学校の児童・生徒を交えた学習番組を制作し、通信衛星を利用して放送するものです。

教育研究所では、学習の全体調整をはじめ、シナリオや学習素材の作成など取り組みの中心的役割を担っています。



遠隔学習時の学校の様子

これらの他にも、所報「いわみざわ」や短信「ひろがり」の発刊等広報活動や教職員研修の実施、教育全般にわたる相談活動や教科書の適切な保存・展示等教科書センターとしての機能を果たしています。



教科書の展示コーナー

適応指導教室との連携

新しい教育研究所には、適応指導教室（愛称「レインボーくらぶ」）が併設されています。この教室では、学校生活に適應できずに、不登校になつてしまつ子どもたちや保護者の相談、支援を行っています。

教育研究所では、適応指導教室との連携を図り、効果的な教育相談に努めています。

新たな展開

岩見沢小学校の空き教室を事務室としていた教育研究所は、今年7月、北海道教育大学岩見沢校敷地内に新築移転しました。

今後は、新たな機能を有効に活用しながら、これまでの活動をさらに充実させることもに、教育大学の教育研究機能や芸術文化・スポーツとの連携協力を深めながら、市民に開かれた教育研究所として、地域連携型・市民開放型の教育研究機関を目指します。



大会議室

問合先 岩見沢市立教育研究所

☎22局 4412

みんなの



学校づくり



市内 26 の小・中学校・市立高校を順次紹介

このように、美園小の教育は、地域の協力の基盤の上に成り立っています。

活動は、大きく、子どもの安全を守る活動、子どもと地域の大人の触れ合い活動に分けられます。代表的なものとしては、子ども達が地域の大人からリサイクル工作や伝承遊びを教えてもらい交流を深める「作って遊ぼう昔遊び」、学校、PTA、児童館、警察のそれぞれ立場から見た子どもたちの様子、問題等について発表、交流し合う「健全育成懇談会」や「美園つ子を守り隊」の子ども見守り活動があります。

本校には、美園小区子ども育成連絡協議会という組織があります。校区18町会をはじめ、児童館、母親クラブ、民生児童委員、補導委員など多くの団体の参加と協力を得て、子どもの健全育成に取り組んでいます。



地域の協力で育つ
美園の子ども

美園小学校

今後も「夢に向かって挑戦する気概」を育てる特色ある活動として継続していきます。

当日は、ハイブリットロケットの開発をはじめ航空宇宙技術開発で著名な植松努氏を講師としてお招きし、講話後モデルロケットの制作指導をしていただきました。小雨の降るあいにくの天気ではありましたが、時速200キロで高さ100メートルまで上がる自作の92基のロケットを次々と打ち上げました。「やった!」と喜びの声を上げる子ども達、楽しさと成就感を味わった学習となりました。

7月12日(木)、第5学年総合的な学習の時間「日の出タイム」において、ロケットの制作・打ち上げを行いました。全ての子が夢を持ち、その実現に向けて前進する大切さを伝えたいという願いから計画した学習です。



打ち上げよう
私たちのロケット

日の出小学校



* * 児童の心に音楽の種を 蒔く教育大の支援

第一小学校



本校のスクールバンドは、学校行事をはじめ市内の各種イベントでも演奏の機会をいただき、特色ある教育活動のひとつとして高い評価を受けています。その演奏を支える支援のひとつが、教育大岩見沢校吹奏楽団の皆さんです。

年間10回程度来校いただき、パートごとに指導くださいます。いつもと違う緊張感が子どもたちの真剣な表情を引き出しています。

子どもにとっては、優れた演奏技術を身近に感じるだけではなく、親しみやすく熱心に指導くださる学生の皆さんの人柄に触れ、一層、音楽に対する興味・関心を高めることにつながっています。

これまでの学生の皆さんの真摯な取り組みが、本校児童の心に、貴重な音楽の種を蒔いてくださっています。



* * 幌向の地域とともに

豊中学校



毎年6月・10月の年2回、生徒会が中心となり、PTA役員・幌向地区町会連絡協の方々と一緒に「クリーン作戦」を展開しています。全校生徒が町内8力所を分担し公園・国道・駅などのゴミ拾いやトイレ掃除、秋には花壇整備などを

行います。地域の方々との交流を深め、きれいな町づくりに貢献しています。

また、2月には、生徒会がボランティアを募集し、高齢者宅を訪問し生活環境整備として除雪活動が行われます。毎年、150名程の生徒が参加しています。これらの活動を通し、生徒の自主性・社会性・責任感を培いながら、郷土を愛する心の育成につながっています。



* * 上幌向『おやじのKAI』

上幌向中学校



上幌向『おやじのKAI』は、昨年度の校内陸上記録会に向けたグラウンド整備作業を第一回目の活動及び総会として、『KAI』の意味となっている、『貢献・交流・懇親』『愛郷・愛敬』をスローガンに設立しました。会則をつくら

ず、枠にとらわれない自由な発想で、学校（子どもたち）のための奉仕作業と相互の親睦を柱として活動を行っており、グラウンド整備・学校祭での手打ちそば提供・校舎ワックスがけなど、その貢献は多岐にわたっています。性別や年齢・所属を問わず多くの方が取り組みに参加していただけるようになり、学校と地域を結ぶ重要な役割も果たしています。

今後、上幌向中学校の枠を越えた上幌向地域の『KAI』が目標です。



今回は、第二小学校、北真小学校、メーブル小学校、清園中学校、明成中学校を紹介しつづけます。

市P連 の活動紹介



市P連研究大会より

7月14日
(土)、市P連
研究大会を
開催しまし
た。

今大会で
は、「命の
尊さ」の教
えがなくて

は学び得ない性教育を取り上げ、深刻化する性の問題について、大人としてしっかりと認識し、どう向き合って行けばよいのかを共に考える機会にしたいと考えました。

この主旨を参加者に一番伝えられる方として、助産師であり岩見沢市立総合病院看護部長の中島由香里さんに講演いただきました。終了後、各単Pからは会員にもお話をしてほしいという声が多く聞かれ、市P連として大変

嬉しい一日となりました。

暗くなった会場にお腹の中にある赤ちゃんの小さい心音が流れ、やがて慌しくなる出産の様子、そして産声と安堵と喜びの声、参加者の多くが母親であり、懐かしさを感じながら中島さんのお話が始まりました。ご自身も二人の思春期の子どもを持つ母親として、直接命と向き合う現場の人間として考えることをわかり易くお話いただきました。最後に「ジューピター」という曲が流れると会場には静かな感動が満ち溢れてくるようでした。

また、今大会では各単Pの要望に応じて託児室を用意しました。役員・会員に保育士の方がおり、ボランティアとしてバックアップいただきました。今後も会員が学ぶことで子どもたちの幸せを目指していきたいと思えます。



初めての託児室

今後の主な行事

【南空知地区PTA連合会】

・研究大会 9月1日(土) 美唄市

・母親研究大会 10月14日(日) 夕張市

【北海道PTA連合会】

・全道PTA研究大会札幌大会
10月20日(土)～21日(日)

※南P大会には岩見沢から110名、母親研究大会・全道PTA研究大会には30～40名が参加する予定です。

母親委員会 活動紹介

市P連・母親委員会は、市内各小中学校でPTA会長や副会長などの役員をされている女性(母親委員)で構成されています。

各委員とも、それぞれの学校でPTA活動の主力となって活躍してくれています。そこに止まらず、各校がつながりを持つことで視野を拡げ、母親ならではの視点、また子どもが一番身近にいる大人として皆で関わり合い共に育っていくと活動しています。

今年度、今後の活動予定としては、市内3か所にある学校給食共同調理所の5名の栄養士さん、現在は、栄養教諭としてもホーム校を拠点に子ども達に食について指導して下さっている先生達に、岩見沢スタイルの給食、食の指導についてお話をいただく研修懇談会を11月に実施する予定です。

栄養士さんと直に各校委員が話をすることで、自分達が理解を深めなければならぬことは何か、母親として大人として食について今一度出来ることは何かを考える機会にしたいと考えています。



一昨年の母親研修

〈問合せ〉

岩見沢市PTA連合会事務局
事務局長 小松 タドル
(清園中学校 教頭)

☎ 22局 4859 FAX 22局 4950

ふるさとの 歴史を訪ねて

郷土史を学ぶ会

昭和58年岩見沢市開基100年・市制施行40周年を記念して、岩見沢市教育委員会主催「郷土の歴史を学ぼう」の成人講座が開催され、多くの市民がその講座に参加しました。

そして、その講座が終わる頃、受講生の中からこういう講座を続けていこうという声があがり、賛同者が中心となり「郷土史を学ぶ会」を結成したのです。そうして岩見沢の昔話を聞きとり始めたのでした。

古老の話を聞いたり、その地へ行って見たりしていると、それらの話は会員のものだけではなく、多くの市民に知って見ていただきたいと、昭和62年を第1回として、市民の皆さんと一緒に「歴史の道を訪ねて―旧夕張道路を歩こう」を実施しました。岩見沢神社から旧渡場までの6・3キロを歩きながら道々にまつわる歴史の《あと》の話をひもとき歩きました。その後も年一度開催し、最初の10回目までは市内を歩いて皆さんと一緒に勉強をしました。11回目からは市内の遠隔地をバスで回り見聞を広げています。平成18年度には20回目を迎え、合併した北村へ足を運び千間道路、旧市街地、石川啄

木歌碑、北村農場、北村農業資料館、市北村支所などを見て聞いて、昔を、そして今を偲んだ歴史の旅でした。



▲北村石川啄木歌碑にて

▼水明公園にて



心・技・体を一につに 的を射る

岩見沢弓道連盟

弓道は、伝統的な武道です。定められた作法により、的に対し矢を当てて勝敗を競うという、他の武道の種目と異なる特性があります。弓射を行うには、体力と技能と精神の一体化が必要です。体力については、年齢・性別に関係なく、各自の体力に合わせた用具を使うことにより、誰でもできるスポーツです。弓道には、基本の動作射法があり、28メートル離れた所から直径36センチの的に矢を射離すまでには、射法八節という基本を身につけなくてはなりません。

岩見沢弓道連盟では、毎年5月から7月末までの毎週2回、昼の部10時から11時、夜の部6時から7時の1日2回、中学生以上を対象とした「弓道教室」を開催しています。弓道を通して、日常生活における礼儀作法や忍耐力、集中力が養えます。弓道は、極めて静かな運動ですが、自己の心との対決であり、心の安定と呼吸・気力の充実が重視されます。豊かな生活を送るための健康維持・増進、また趣味や生涯スポーツとして多くの皆さんに弓道を楽しんでほしいと思います。

市内には、近約9人立の東山公園弓

道場があり、一年を通して、高校の弓道部の皆さんから成人の有段者の方々まで、日夜練習に励んでいます。

近年、岩見沢西高校弓道部の活躍が素晴らしく、8月5日から開催された全国高等学校総合体育大会には、男女とも出場しました。また、9月に秋田県で行われる国民体育大会には、少年女子の部で3人の方が出場されます。日頃の練習の賜物です。射離した矢が的に当たった音は、その人の心を魅了します。一度、弓道場に足を運んでいただき、弓道教室への参加もお待ちしています。



今年の全国高校総体（佐賀県）に出場した岩見沢西高校弓道部



指導室から

近所で畑を作っている年配の方に、野菜作りと子育ては同じだという話を聞きました。丹精を込め、愛情を注ぎ、昨日から今日の僅かな成長に喜びを感じ、優しく声をかけてあげることがおいしい野菜を作るコツだということです。

私は、畑は素人なのでなかなかうまくいかないのですが、うまく育たない野菜（自主性や社会性が育っていない子）には2種類あるようです。ひとつは、水や肥料が足りない場合（放任、愛情不足）です。もうひとつは、水や肥料のやり過ぎで根が腐っていたり、葉ばかりが茂って実にならない場合（過保護、過干渉）です。こちらの方が改善は難しいと思います。

子どもに自主性を育てるには、自分で考え自分で決める機会を与える、困ったとき子どもの考えを言わせてからアドバイスする、任せる部分と干渉する部分を分けることなどが大切です。また、社会性は、家族の心の交流、地域行事への参加、自然とのふれあいや集団での遊びなどの直接体験を積み重ねて育っていきます。

失敗の経験が子どもを育てます。子

どもが転ぶ前に石を取り除くのは過保護です。石につまずいて転んで泣く子を抱きしめてやるのが本当の意味での保護です。近頃は、先に石を取り除いたり、転んでも抱きしめてやることでできない保護者が増えていていると思います。

子どもは、失敗する権利がある。失敗させないことも、認めないことも、放置することも、教育ではない。



家でできる 簡単給食しシピ♪

岩見沢の地場産物『ヤーコン』を使って…

こんこんきんぴら

※材料（4人分）※

・ヤーコン	80 g
・米ぬか油	少々
・れんこん	40 g
・酒	小さじ2
・つきこんにゃく	60 g
・三温糖	大さじ1
・さつまあげ	60 g
・みりん	小さじ1
・白炒りごま	大さじ1
・醤油	大さじ1～2（お好みで）

※作り方※

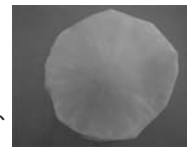
- 1 ヤーコン・れんこんは、皮をむいていちよう切りに切って薄い酢水につけてあくをとる。
- 2 つきこんにゃくは、熱湯にとおしておく。
- 3 さつま揚げは、スライスする。
- 4 米ぬか油を熱し、さつま揚げ、つきこんにゃく、ヤーコン、れんこんを炒める。
- 5 酒、みりん、三温糖、醤油で調味する。
- 6 白ごまを混ぜて、軽く炒めてできあがり。



ヤーコン



ヤーコンの葉



ヤーコンの皮をむいたところ

ポイント！



ヤーコンは、少しあくがある野菜なので、皮をむきながら酢水につけあくをとるか、さっと軽くゆでてあくをとるなどすると、よりおいしくヤーコンを食べることができます。まだまだ珍しい野菜ですが、体にとても良い、新しい岩見沢の地場産物をぜひ、たくさん食べてみてください！

ちょっと情報
ミニ

岩見沢市絵画ホール 松島正幸記念館

松島正幸画伯は、1965年から7年間にわたり北海道教育大学岩見沢校で講師を務められ、岩見沢で開催した北海道21世紀博覧会（1986年）では、岩見沢の絵はがき「あやめ公園」を描かれるなど、岩見沢と大変縁のある国際的にも著名な画家です。
館内には、200点以上の松島作品のほか、地元作家の彫刻等が収蔵・展示されています。
また、建物は旧警察署であり、戦前

期の鉄筋コンクリート造建築としては、現存の建物は少なく貴重なものといわれています。



常設展示室

=ご意見・ご要望をおよせください=

<担当>

岩見沢市教育委員会企画総務課情報企画係

〒068-8686

岩見沢市鳩が丘1丁目1番1号

☎ 0126-23-4111（内線416）

FAX 0126-25-2995

メール ejyouhou@i-hamanasu.jp